

氷がとけると水になる



浄土真宗の開祖親鸞聖人は京都のお方ですが、承元の法難にあつて越後（新潟）に流されました。京都では見れないような豪雪をご覧になり驚かれたことでしょう。そんな親鸞聖人はこのようにお示しです。

「かならず煩惱の氷とけ
すなはち菩提の水となる」

ここでは、人の煩惱を「氷」、仏の菩提（悟り）を「水」にたとえられています。

一般的な仏教では、修行して煩惱を小さくし、最終的には煩惱を消し去つて悟りをひらくと説かれます。煩惱と菩提は正反對のものです。

しかし、親鸞聖人の教えはそうではありません。煩惱が菩提になると仰るのです。

そもそも、人と煩惱は別けられません。人間の三大欲求も煩惱です。私と煩惱は分離できません。そう考えると、「私には煩惱がある」と言うより「私が煩

悩」と言う方が正確でしょう。煩惱を消し去るということは私が消えて無くなつてしまうということ。だとすると、煩惱を消し去つてはじめて救われるなら、私は決して救われません。人間はどこまでも煩惱を捨てられないと見抜かれた親鸞聖人は、「阿弥陀さまは、そんな私たちだからこそ、決してお見捨てにならない」とお説きになりました。阿弥陀仏は、煩惱をかえた私を切り捨てず、その煩惱ごとお浄土に救いあげて悟らせて救う仏さまなのです。

南無阿弥陀仏 副住職

金剛山一念寺（浄土真宗本願寺派）

大阪府高槻市下田部町一丁目二ー二〇

電話 : 072-671-6091

メール : takatsuki1nenji@gmail.com

一念寺の

インスタグラム ↓

フォローしてね



Instagram